

タイトル 「事例発表Ⅰ」

講演者 佐々木得人、立川美也子、黒滝繭子、神囿明美、松本恵子、井高美紀、夏井智美

学校名 神奈川県立市ケ尾高等学校 P T A

研究テーマ 「持続的発展可能な PTA 活動への取り組み」

1. 市ケ尾高校について

市ケ尾高校は東急田園都市線の市が尾駅から徒歩約 18 分の田畑が多く残る鶴見川沿いにあります。



設立は 1974 年、川和高校で開校準備が行われ、その後現在の地に移転し、2023 年には創立 50 周年を迎えることができました。生徒数 1,000 人を超える、県内でも有数の大規模県立高の 1 つです。



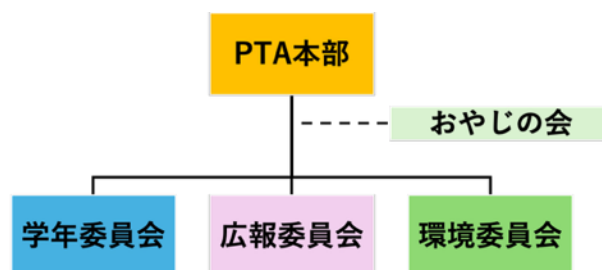
部活動の加入率は 90%ほどと非常に盛んで、文化部・運動部ともにレベルが高く、最近では書道部、ダンス部、軽音部、陸上競技部が全国大会にも出場するなど文武両道に励んでいるのが特徴と言えるでしょう。なかでも軽音部は全国大会の Teens Rock 2025 GP ファイナルでグランプリを受賞し、日本最大級の音楽フェスであるロック・イン・ジャパン フェスティバル 2025 に出演を果たしました。



そして、これまでの卒業生が残していった伝統の合言葉が「市高最高!」。今でもこの合言葉は受け継がれています。

2. 市ケ尾高校 PTA について

組織体制は、PTA 本部を中心に、学年、広報、環境の各委員会がそれぞれ活動しており、PTA 傘下の下部組織として、おやじの会があります。



2.1 本部

役員会、運営委員会などの開催に加えて、会の終わった後には茶話会や懇談会なども企画しています。文化祭の白鷺祭模擬店や冬の球技大会における炊き出しの企画では、お手伝いをしてもらえる一般保護者を Google Form を活用して募集しています。本部ではみんな仲良く、ワイがガヤで楽しく PTA の企画・運営をしています。



2.2 学年委員会

卒業生へのコサージュの用意や、保護者向けの手作り教室などに加え、本部主催の模擬店や炊き出しにも協力し、PTA 活動を仲良く楽しく実施しています。



2.3 広報委員会

保護者目線で学校イベントを楽しく取材し、情



報の発信は広報誌を通して行っています。広報誌は、いつも盛り沢山中身の濃い内容で、神奈川県広報紙コンクールでは2年連続入賞を果たしました。昨年度は、なんと最優秀賞を受賞することができました。



2.4 環境委員会

ガーデニング好きな保護者の集まりです。卒業式や入学式に合わせて、登校するみんなに楽しんでもらえるよう、お花を植えています。また、クリスマスシーズンになると、花壇やポニーの丘と呼ばれる中庭の木に飾りつけをして、みんなに楽しんでもらえるようにしています。



2.5 おやじの会



おやじの会の活動は、これまでコロナ禍の影響で大幅に制約されてきました。模擬店出店や餅つき大会を数年、実施することができませんでした。しかし、昨年度に模擬店のうどん屋、今年に入ってから餅つき大会を開催でき、コロナ禍前のおやじの会の活動をようやく完全復活させることができました。餅つき大会では慣れない手つきで杵を持って臼の餅をつく生徒の様子が見られました。



3. 持続的発展可能な PTA 活動を目指した取り組み

市ケ尾高校 PTA では、地域との連携を強化し、保護者と学校の協力を推進しています。活動の持続的発展のために、活動の透明性や参加しやすさを重視し、多様な意見を取り入れる工夫も実施中です。

PTA ロゴマークについて、昨年度の 2024 年度はコロナ禍後からの活動が復活できた最初の年でした。そのため、これまでの途切れた活動の再立ち上げを誓って、Rise up からつけられました。今年度のロゴマークでは、その活動がさらに輝ける状態を目指そう、ということからつけられました。



コロナ禍からのPTA活動の復活を誓って！さらなる輝きのあるPTA活動を目指して！

3.1 取り組みその1

さて、その取り組みの1つとして、従来の古いイメージである用語を刷新していこうという試みです。「PTA」という用語には、古いイメージが強く、小・中学校の経験から、この用語を見たり聞いたりするとアレルギーになる保護者も少なくありません。

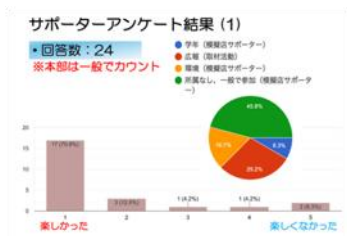
そこで、みんなに分かりやすく、親しみやすいネーミングにしていこうと考え、PTA 本部は市高生サポーターズクラブ、学年委員会は保護者イベント企画委員会、広報委員会はアオハル広報局、環境委員会は、環境（ガーデニング）委員会と、少しでも活動参加への心理的なハードルを下げられるようにと工夫を加えてつけました。ただし、これがベストなネーミングということではなく、時代の変化に合わせて、もっと親しんでもらえるようないいネーミングがあれば変えていくことも必要だと考えます。



3.2 取り組みその2

取り組みの2つ目は、活動を行ったら、必ずその活動の振り返りを実施します。良かったところは継続、良くなかったところは改善点を見つけ、次の計画に盛り込んで、より良い運営にするためのPDCAサイクル回すことを念頭においています。

来場者や活動に参加してくれた人にマチコミやPTA ホームページを活用して、Google Form を使ってアンケートを実施し、その結果を振り返りとしてまとめています。



サポーターアンケート結果 (2)

参加して良かった点は？ 生成AIによる要約 (詳細は付録参照)

- ・参加の楽しさ: 昨年に続き2度目の参加で、物がある楽しさを感じた。
- ・生徒たちの様子: 生徒たちが楽しそうに笑い物をしている姿が可愛らしく、一生懸命準備している様子を間近で見られた。
- ・交流の機会: いろんな方と交流でき、青春のおすそ分けをもらった感じがした。
- ・サポーターの役割: 呼び込みと会計の役割分担がきっちりしていて、行割ができてスムーズに対応できた。
- ・文化祭の雰囲気: 文化祭の雰囲気を感じられ、ステージや展示物、各クラスの近し物を楽しめた。
- ・学校の雰囲気: 学校の雰囲気やPTA、委員会の活動内容を知ることができた。
- ・サポーター体験: 冷房用に冷凍ペットボトルを持ってきてもらうなど、サポーター体制が良かった。
- ・後援者の感謝: 準備から当日対応までされたが、後援で疲れが吹き飛んだ。
- ・市高生の良さ: 市高生の優しさを中継室で「関係者の良さを再確認できた」。

最近では、生成 AI を活用してまとめた結果から改善点を抽出し、今後の対策の検討まで実施できるようにしています。

このような活動方針のもと、昨年、冬の名物行事の球技大会では、これまでにない大規模な炊き出し提供を実施しました。

市高史上最大の豚汁大作戦

おかわりOKの
2,400食で計画

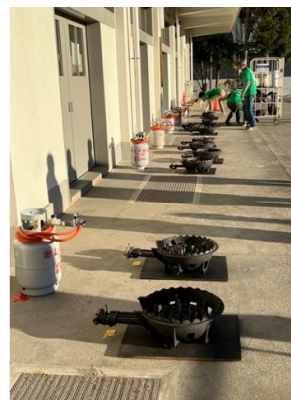
基準レシピ		必要量	
食材		計量法	または
肉	豚肉	56 kg	56 kg
	長ねぎ	360 本	47 kg
	大根	60 kg	60 kg
	人参	48 kg	48 kg
	ごぼう (冷凍)	360 本	50 kg
その他	豆芋 (冷凍)	1,200 個	40 kg
	油揚げ	600 枚	大れなせ
	みそ	2,400 大	48 kg
調味料	七味	600 小	1.5 kg



名付けて「市高史上最大の豚汁大作戦!」。全員おかわりできる2,400食を計画し提供しました。実は、これ以前の年の球技大会の炊き出しではコロナ禍の影響もあり、キッチンカーだったり、

レトルト食品の提供だったり、炊き出しに協力してもらえる保護者も限られてしまい、多くの保護者が学校に来て生徒の様子をみることや保護者同士が交流できる機会が取れませんでした。また、コロナ禍前のとん汁提供のノウハウも途切れており、これまで2,400食も提供したことがなく、机上の検討のみでした。まさに未知への挑戦でした。本部一同、綿密に実行計画を練りましたが、いざ実際の実行ではどうなるか、フタを開けてみるまでは分かりません。実行あるのみ、でした。

さて、食材の事前調達から開始です。2,400食分なので集めるのも、下準備も大変です。そして実施当日、天気も良く早朝より作戦開始です。調理班と鍋班に分かれ、炊き出し作業を始めました。コンロと鍋は、12セット。参加者で手際よく調理が行われていきました。



調理を開始してから約2時間後の午前11時にとん汁を提供開始。瞬く間に、生徒たちの大行列ができました。事前におかわり自由と伝えていたこともあり、中には5杯、6杯と平らげる子どもの姿もあり、大盛況のうちに作戦を完遂することができました。

さてこのような活動ですが、もちろん実施後

の振り返り評価は欠かせません。

来場してくれた生徒にはポストイットで、参加した保護者には Google Form でアンケートを実施しました。今回の大作戦は、生徒にも保護者にも非常に満足度の高い活動だったようでした。もちろん、反省点もあり、次回以降にはこの反省点から改善事項を盛り込んだ、より良い運営に繋げる方針です。

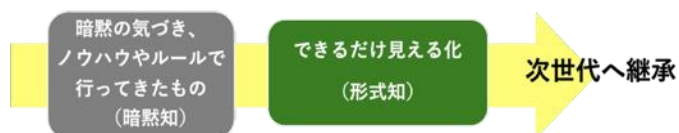


4. 今後の展望

今後も持続的発展可能な PTA 活動を目指すため保護者が活動に参加し易く、親しんでもらえる工夫は欠かせません。また、一人でも多くの保護者に参加してもらえる仕組みも継続して検討し

ていきます。持続的発展可能な PTA 活動というテーマに沿うと一番重要な課題は保護者として最長でも 3 年しか活動に関われない（もっと長い人もいますが、それは少数派）という制約条件がある中で、いかに活動のノウハウを後輩保護者に継承していくか、です。そのためには、これまで蓄積されてきた暗黙の気づき、ノウハウやルールなど（暗黙知）は、できるだけ見える（形式知）化していくことだと考えます。これは、引き継ぎでとても重要なことでしょう。

PDCA サイクルを回すだけでなく、短い期間の PTA 活動で得られた気づきを次の世代へ継承できるようにするため、データ化して誰にでも見えるようにしていくことだと思います。



ところで、市ケ尾高校では体育館が耐震工事中となってしまう、来年の卒業式と入学式が校内で実施されません。新入生保護者への PTA 活動をどうやってアピールするかが課題で現在、検討中です。